

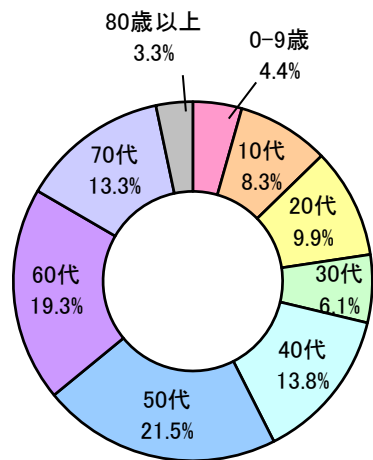
特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 —雪舟、永徳から光琳、北斎まで—」

アンケート集計結果

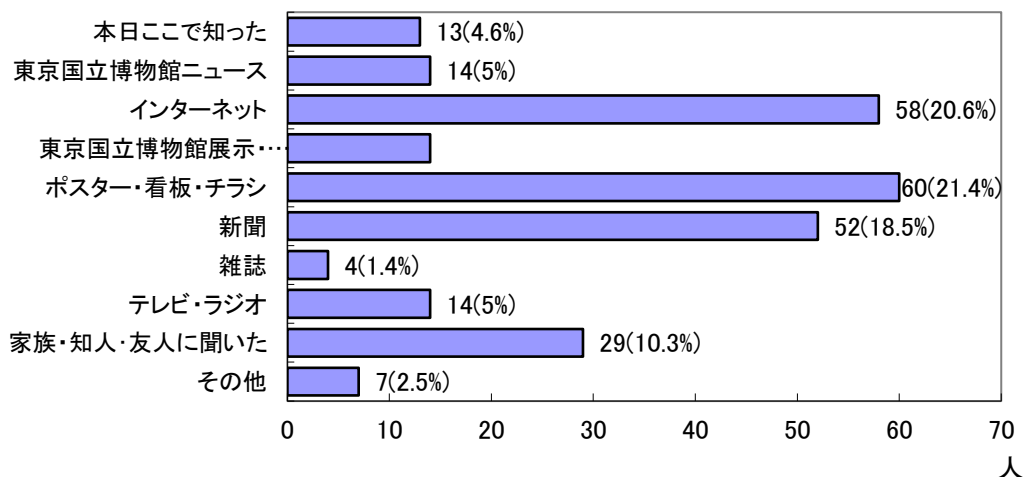
開催期間：令和元年5月3日（金）～令和元年6月2日（日）（27日間）

回答者数：194人（総入館者数：106,593人 アンケート回収率：0.18%）

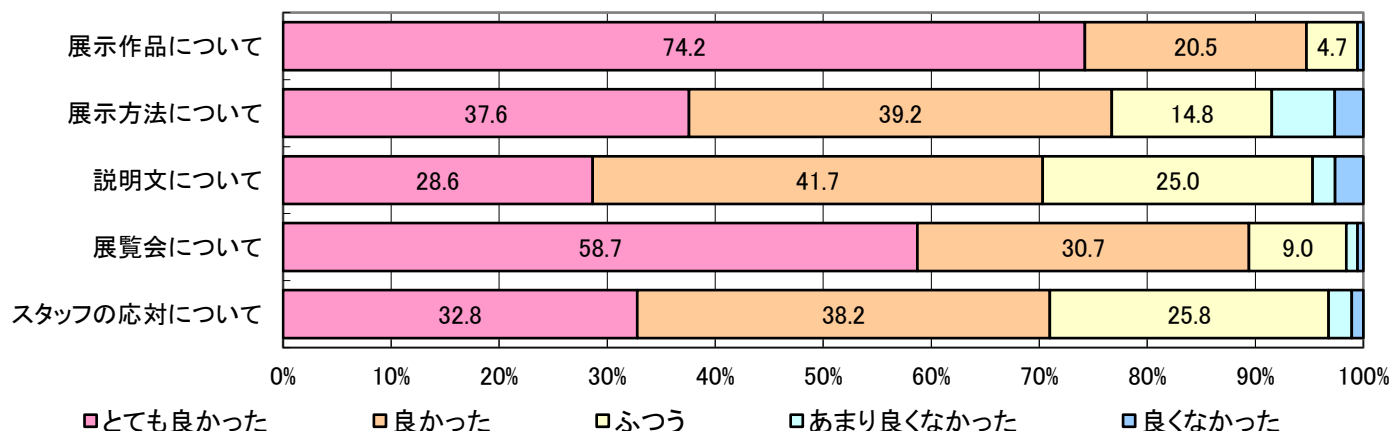
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・思っていた以上に素晴らしい作品が多く、再度鑑賞できたものもありよかった。特に唐獅子図屏風の観覧ができよかった。
- ・日本美術を総合的に見ることができ、興味を持てる分野を探せて良かった。
- ・展示室が狭く、空調も他の展示室に比べ適温ではなかった。
- ・展示室の観覧の順番、作品の観覧の順番がわかりにくい。
- ・観覧料金が低い。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.0	0.5
展示方法	5.8	2.6
説明文	2.1	2.6
展覧会	1.1	0.5
スタッフの対応	2.2	1.1

(%)

本展は、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」の一環として開催された特別展です。皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した当展覧会には、27日の短い会期中に10万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して89.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また、当初予定前期後期で展示替えを予定していた展示品を通期で展示することになり、日本美術の名品を総合的にみることができてよかったなどの好意的なご意見をいただくこともできました。

その一方で、本展覧会は本館1、2階を変則的に使用したこと、「観覧の順番がわかりにくい」「1階と2階の移動が大変」とのご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。